

小豆島町学校ICTレポート

Vol. 21 2022年7月25日発行

学習用タブレットの持ち帰り

○学習用タブレットの持ち帰り

2022年7月1日～4日と7月9日～11日の2回の週末を利用して、小豆島町立小豆島中学校の全校生が家庭に学習用タブレット(iPad)の持ち帰りを実施しました。持ち帰った学習用タブレットで「すららドリル」などの課題を家庭で行いました。

小豆島中学校では、二学期から家庭への学習用タブレットの持ち帰りと自学習への活用を本格的に始めます。

○すららドリル

「すららドリル」は、すららネット社が提供しているAIドリルサービスです。教師が、指定した範囲を課題として与えることもできますが、自主的にドリル学習に取り組むこともできます。また、解けなかった問題から、つまづいた単元にもどって学習を促す機能もあります。例えば、中学校の数学で因数分解ができない原因が、分数の理解不足であると推定されると、小学校の算数に戻って学習することができます。



図. すららドリルの画面例

○MEXCBT

MEXCBTは、文部科学省の事業として提供しているオンライン・テストのシステムです。MECBTには全国学力・学習状況調査の過去問題など、国や地方自治体が登録している問題が登録されており、学習用タブレットへ配信することができます。小豆島町では、町内の全小中学校に導入しています。

○AIドリル

ドリルとは、学習者が問題を繰り返し解くことで理解を深める手法のことです。最近では、AIドリルと呼ばれる教材が注目されています。AIという言葉は抽象的な概念ですが、AIドリルには、ラーニング・アナリティクス(Learning Analytics)と呼ばれる手法が使われています。

○ラーニング・アナリティクス(Learning Analytics)

学習者の学習履歴から統計的手法などで分析することにより、学習者の達成度の評価や隠された未到達の学習領域の発見などを行う手法一般が、ラーニング・アナリティクス(Learning Analytics)です。

GIGAスクール構想に代表されるように、学習者が常にデジタル機器を使って学習できる環境が整ってきました。ここから発生する大量の学習データを蓄積します。これを統計手法などを駆使して、学習者の学習目標に対する到達度、理解不足の学習領域の洗い出し、将来の成績予測などを解析します。これらのデータから学習者に対して適切なフィードバックを行うことができます。

小豆島町の目標

全児童生徒の主体的な学びを実現するためにICT活用の質を高める